



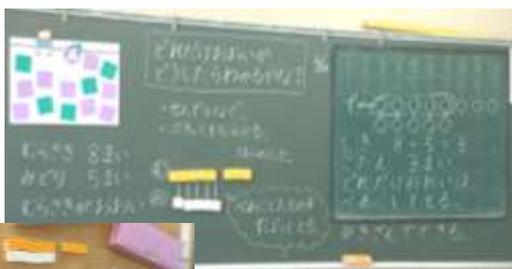
ICTの可能性と体感的な学び

校長 藤原 明美

先日梅雨入りしたと思っていたら、7月を待たずに異例の早さで梅雨明けが発表になりました。子どもたちは、アサガオや夏野菜など、育てている植物の様子を気かけながら、朝のうちに熱心に水やりを続けています。連日の急な暑さに体が慣れていないので、天候に気を配りながら学習活動を進めています。夏休みまでの日々、元気に過ごしてほしいと思っております。

さて、先日の土曜参観ではたくさんの方のご来校ありがとうございました。大変短い時間でしたが、学校での様子を見ていただくことができ、子どもたちもワクワクそわそわしながらもとても嬉しそうでした。今後も、横浜市のガイドラインに合わせながら、可能な限り子どもたちの様子を見ていただけるよう工夫してまいります。

アンケートのご意見ご感想、嬉しく読ませていただきました。その中には、ICTの活用について期待を寄せてくださっているものもたくさんありました。一人一台のタブレットを用いた授業は大きな可能性をもっています。鉛筆やノートと同じように「便利な学習のツール」として活用する中で、授業は確実に変わってきています。例えば体育では、自分の動きを友達に動画で撮ってもらい、自分で動きを確認し、瞬時に自己評価して動きの改善につなげることもできます。また各教科の話し合いの場面でも、友達の作品や考えをタブレットで共有し、デジタルの付箋に意見を記入する方法で交流できます。実際に話さなくても、多数の友達とつながり、良さを認めたりアドバイスをしたりして、考えを深めています。導入当初はタブレットに慣れることに力を注いできましたが、より効果的な表現方法として、従来の方法とタブレットの活用を選択できる力もついてきています。1年生は基礎的な学び方を習得してから、タブレットの導入を段階的に進めてまいります。



また、本校では、教職員の授業改善に向けた取組も積極的に進め、外部講師を招いて、国語科を中心に様々な教科等の授業研究を行っています。先日もメンター研修として、算数や理科の授業研究を行いました。

1年生では、算数の授業で、折り紙の数の違いを求める際に、折り紙をブロックに置き換えて一人ひとりが具体的に操作を



行って図式化しました。その操作を繰り返す中で、引き算の仕組みを体得し、理解していました。また3年生の理科では、科学的な見方・考え方の基礎を育成するために、ゴムを動力とした車の進む距離を一人ひとりが実際に測定しました。一人ひとりが体感することに意義があります。条件を揃えて得た個人データをグラフの中にドット(点)で表し、集積したクラス全体の実験結果から考察、意見交換をして考えを深めていました。これらの活動には、いずれもタブレットでは得られない体感的な学びがあります。直接体験や具体操作を大切にしながら、教師が適切に学びのツールを選択することはもちろん、子どもたち自身が自らの考えを表現する際にどのツールが有効かを考え、適切に選択できるよう育てていきたいと考えています。

感染症対策や熱中症防止対策を施しながら、「考える授業」「自らの思いを表現できる子の育成」を目指して教育活動を進めてまいります。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

